

# 木漏れ陽

# 9月

平成28年9月1日 第42号  
発行佐賀市教育研究所  
発行責任者 所長 中村祐二郎

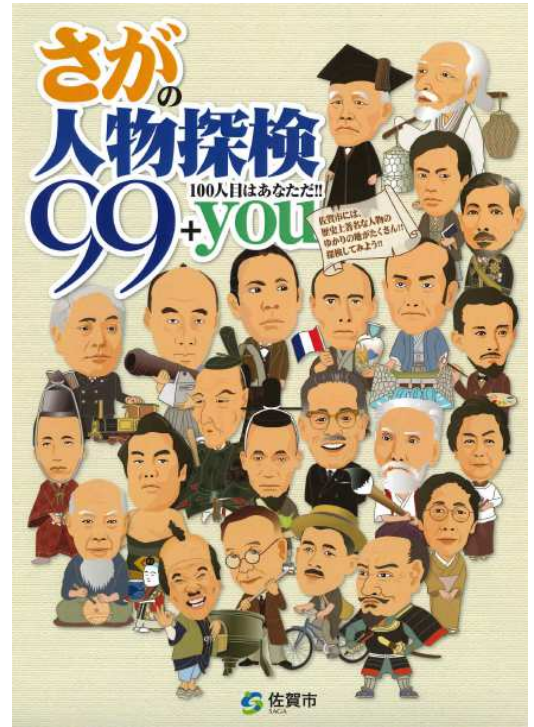
## ～ふるさとを知り、好きだと言える子どもに～

生まれも育ちも佐賀。「生粋の佐賀県民」、いや「佐賀市民」だと胸を張っていた私ですが、市教委にきて5か月間で「知らないことが多過ぎた！」と感じています。

佐賀市の目指す子ども像のひとつとして、佐賀の歴史や文化を学ぶことで「ふるさとを誇りに思い、愛着をもつ心情を身に付けた子ども」が挙げられています。その育成のため、佐賀市教育委員会では、市内の小中学校の先生方の協力を得て、郷土学習資料の作成を行ってきました。縁あって、4月よりその編集作業に携わらせていただきました。

右の写真は、この9月に発行される佐賀の郷土学習資料『さかの人物探検99+100人目はあなただ!!』の表紙です。皆さんは、この表紙に掲載された佐賀市ゆかりの偉人のうち、何人を答えることができますか？（イラストですから難しいかもしれませんね・・・）

以前の私はというと、小学校で学んだ「佐賀の七賢人」に加えて佐賀にわか筑紫美主子さん、江崎グリコの江崎利一さん、市村記念体育館の市村清さん・・・その程度だったように思います。とても99人には遠く及びません。佐賀市には政治だけでなく、医学・教育・芸術・スポーツなど様々な分野で活躍した偉人がたくさんいます。少しだけ紹介してみましよう。



田中 久重

からくり儀右衛門と呼ばれる発明の天才。三重津海軍所では、実用的に運用された日本初の蒸気船「凌風丸」の建造にも関わりました。また、久留米緋の機械織りを成功させ、世に広めるきっかけを作りました。

福田 ヨシ

楠の木おばさんとも呼ばれています。佐賀県庁周辺の楠が伐採されようとしたとき、体を張ってそれを止めました。また、女性初の佐賀県議会議員となり、活躍しました。県庁のお堀端には、石碑も建っています。



編集作業中は、「こんな人がいたのか!」「なるほど!」「おもしろい!」の連続でした。知れば知るほどおもしろさは増し、「もっと知りたい」と思うようになりました。そして「ふるさとさが」が、ますます好きになりました。

きっと、子ども達も同じでしょう。子ども達には「ふるさとを誇りに思い、愛着をもつ心情」を身に付けるためにも、まずは「ふるさとさが」のことを知ってほしいと願います。その中で市内の小中学校の先生方が力を合わせて作られた『さかの人物探検99』を役立てていただけると嬉しいです。

「ふるさとが好き、〇〇学校が好き」と胸を張って言える子どもがもっともっと増えると素敵ですね。

(指導主事 平石実鈴)

# 平成28年度 8名の先生に個人研究を委嘱

今年度は、8名の先生に個人研究を委嘱しました。自分の研究主題に基づいて1年間研究を積み重ねた成果は、**平成29年1月26日の佐賀市教育研究発表会**で発表の予定です。佐賀市の先生方の教師力向上に資す内容で、参考になる取り組みがたくさんあると思いますので当日はぜひお出かけください。

学校名	氏名	分野	研究主題等
西与賀小	江里口大輔	個人研究	「読むこと」と「書くこと」を関連させながら確かに書く力を育む学習指導方法の工夫【国語】
高木瀬小	田中和也	個人研究	ADHDと二次障害を抱えた児童への効果的な支援を考える【特別支】
高木瀬小	山本将来	教材教具	意欲的に学ぶ児童育成のための教材研究【算数】
北川副小	熊本晋作	個人研究	友達と教え合いながら、運動の楽しさを味わう児童の育成【体育】
諸富南小	高峰 勤	個人研究	命の大切さやすばらしさを実感できる児童の育成【理科】
春日小	野口貴志	個人研究	国語科における音読の楽しさを味わわせ、主体的に活動に取り組む子供を育てる指導のあり方を探る【国語】
思斉小	桑原良太	個人研究	小中一貫校における児童のキャリア発達を促す課題対応力の育成【社会】
成章中	田原典尚	個人研究	将来、主権者として主体的に社会の形成に参画する生徒の育成【社会】

## 新任者の先生もがんばっています。

45名の新任者の先生も指導教員や先輩の先生方に支えられて研修をがんばっておられます。校内における年間150時間の研修と13日～14日の校外研修を計画に沿って行いますが、何よりも職場の先輩に学ぶことが多いと思います。行事の多い2学期ですが一つ一つの行事をやり遂げるごとに子どもたちはぐんと成長します。新任者の先生も子どもとともに成長されることと思います。学校全体で新任者を育てる気運を盛り上げ、些細なことでもいいので、新任者の先生には、ぜひたくさん声をかけてくださるようお願いいたします。(研究所員会担当 大久保美奈子)



## 特別支援教育は今...

今年度から学校教育課に特別支援教育係が新設されました。4月に「障害者差別解消法」が施行され、その対応指針が文部科学省から出されました。色々な意味で、特別支援教育にスポットライトが当たっている今日この頃です。特別支援教育係は、特別支援教育に係る色々な仕事をしてしていますが、「学校が楽しくなるような環境づくり」に多方面から心を砕いています。特別支援学級に役立つ情報提供をしたり、生活指導員を配置したりすることはもちろん、研修会を開いたり、学校の色々な相談に乗ったりしています。特別支援教育のノウハウは、ユニバーサルデザインにつながるもので、学級経営にも大いに役立つものです。

子どもたちの小中学校ハッピースタートのために、「えがお・わくわく」や「小中連携」など学校教育課と保育幼稚園課とが連携して様々な活動を行っています。中でも年2回の「就学相談」は大きな活動のひとつです。これは、子どもたちの就学について、よりよい就学先を相談するものです。今年度は、第1回の相談会で140ケース、第2回で90ケースの相談でした。保護者の悩み相談に、学校教育課だけでなく、保育幼稚園課と連携して、「何とか、お役に立ちたい」という思いで実施しています。今回の就学相談は来年の春のことですが、1年前のこの時期から、中にはもっと前から、よりよい就学を目指し、悩みの季節を乗り越えて、春のうれしい入学式があるのですね。(特別支援教育係 小森京子)

4月 ハッピースタート！  
子ども達の「学校が楽しい」を  
サポートします！

